



ゲノム編集は生命観を変えるか?

第39回 日本分子生物学会年会 市民公開講座

2016
12.2 (金)
18:15~20:15
会場: パシフィコ横浜 会議センター 5階 [503]



参加費無料
事前申込不要



2016年12月2日(金)
18:15~20:15

パシフィコ横浜 会議センター 5階 [503]

参加費無料
事前申込不要

ゲノム編集は生命観を変えるか?

第39回 日本分子生物学会年会 市民公開講座

近年、分子生物学の研究において、CRISPR/Cas9等を用いた現代的なゲノム編集技術の種々の分野での利用が拡大しつつあります。現代的なゲノム編集技術は、古典的な遺伝子組み換え手法よりも、生命の真理の探求において、その効率や精密さにおいて圧倒的に優れています。また、育種等においては自然交配よりも短期間で、目的とする有用な形質をもった作物や畜産物をつくりだすことを可能にしました。一方、疾患の治療を目的とした、ヒトの細胞に対してゲノム編集技術を応用した研究も報告され始めています。ゲノム編集技術のこのような側面は、必然的に生命倫理的問題を包含しています。本市民公開講座では、種々の立場から、現代的なゲノム編集技術の現状と、その応用にまつわる課題について、パネル討論形式で議論を深めることを目的としています。本テーマに関心のある本学会関係者ならびに一般市民の方々の多数の参加を希望いたします。

パネル討論者



石井 哲也

(北海道大学 安全衛生本部 教授)
生命倫理研究者。遺伝子組換え作物、幹細胞研究、生殖補助医療、遺伝子治療などに関心がある。



斎藤 通紀

(京都大学大学院医学研究科 教授)
幹細胞から生殖細胞を分化させることに成功。



石野 良純

(九州大学農学研究院 教授)
分子生物学者。1986年に大腸菌よりCRISPRを発見。



武藤 香織

(東京大学医科学研究所 教授)
生命倫理研究者。とくに生殖補助医療や遺伝性疾患に関して、患者や被害者の立場からの問題を扱う。

モデレーター



瀬川 茂子

(朝日新聞社科学医療部 記者)
防災、脳科学、幹細胞生物学などを専門とする。

企画



大隅 典子

(東北大学大学院医学系研究科 教授)

【連絡先】第39回日本分子生物学会年会事務局(株式会社エー・イー企画 内)
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4 岩波書店一ツ橋別館4F Tel:03-3230-2744 Fax:03-3230-2479 E-mail:mbsj2016@aeplan.co.jp

